

教育ICT活用 実践 研究

関東甲信越ブロック発表会

www.chidiji.jp

横浜市立茅ヶ崎小学校 公開授業 報告

解説・千葉県柏市立教育研究所指導主事
佐 和 伸 明

1 公開授業

(1)開催校について

平成22年11月5日、神奈川県横浜市立茅ヶ崎小学校（林弘之校長：児童数616名）において、教育ICT活用実践研究・関東甲信越ブロック研究会が開催された。

同校（写真1）は、研究テーマを「個を見つめ、個を育てるための学び合いを目指して」と設定し、日常的に子どもたちのコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。今回の公開研究会においても、電子黒板等の教育メディアを活用することにより、伝え合い、高め合う学習のあり方について、これまでの研究の成果を見ることができた。また、職員玄関や校長室には、国の天然記念物であるミヤコタナゴ（写真2）が大切に飼育されており、心を育てる教育にも力を入れていることが印象的であった。



写真1・横浜市立茅ヶ崎小学校



写真2・茅ヶ崎小学校のミヤコタナゴ

(2)公開授業について

当日は、同会場にて関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会も開催されており、1年から6年までの全学年において、公開授業が実施された。教育ICT活用実践授業は、下記の4学年で実施され、教室に入りきれないほどの参観者を集めていた。

2年	生活 「だいすき茅ヶ崎のまち」
4年	算数 「垂直・平行と四角形」
5年	社会 「人々のため、より速く、より正確に」
6年	国語 「平和へのわたしたちの思いを伝えよう」

(3)公開授業の実際

2年 生活の授業より

授業者：浜田賢二 教諭

2年生の授業は、「実やたねを大きくうつつて、ひみつをつたえよう」という学習問題を立て（写真3）、各自集めてきた実や種を発表し合う活動が展開された。

発表は、4グループに分かれ、実物投影機で取り込んだ画像を電子黒板で拡大したり、注目させ



写真3・小さな種を拡大する

たいところに書き込みをしたりする姿が見られた(写真4)。実や種の取り組みや拡大、ペンによる書き込みなどの操作を、教師の力を借りず、2年生の子もただで行っている姿に、多くの参観者が驚いていた。本時にいたるまでに、子どもたちのスキルを育ててきた成果である。

発表では、「しましまの模様があります」「大きくしてみると細かい毛が生えていました」など、肉眼では見えないことを、電子黒板で大きく映したり、さらに、一部を拡大してみたりすることで、聞き手と情報を共有することができた。そのため、発表を聞いて、感想などがたくさん出されており、友だちとの関わりを通して、学び合う姿が見られた。



写真4・書き込みをして説明する

新小学校学習指導要領算数の目標に、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」とある。現行の学習指導要領と比較すると、「表現する能力」が追加されている。この活動でも、表現するために思考したり、発表し合うことによって思考が深まったりする姿が見られた。

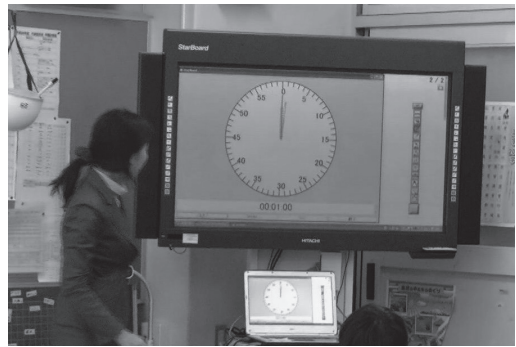


写真5・タイマーを提示する

4年 算数の授業より

授業者：小塚ちえみ 教諭

4年生の授業は、「それぞれの形の対角線のとくちょうについて調べよう」という学習問題を立て、四角形の対角線の特徴について理解する学習が展開された。

各自が対角線の長さや角度の大きさについて、定規や分度器、コンパスなどを使って調べ、ワークシートにまとめる活動の際には、電子黒板にタイマーが提示された(写真5)。簡単な活用事例であるが、子どもたちは時間を意識しながら作業を進めることができ、効果的であった。

対角線の特徴を発表する活動では、デジタル教材を使い、子どもたちが書き込みながら説明をした(写真6)。互いの考え方の共通点や相違点をはっきりさせることで、思考を深めることができた。



写真6・書き込みながら考えを発表する

5年 社会の授業より

授業者：山本正貴 教諭

5年生の授業は、「人々にとって、気象情報とはどういうものか」という内容で、自分のオリジナル健康予報[※]に発展する学習が展開された。

教師が、事前に吟味しておいたインターネット上の情報を、拡大しながら提示していた(次頁・写真7)。教科書や図書資料には載っていない最新の情報を、電子黒板で効率的に提示することに

※健康予報：気象と生き物(病気)とを関連させ、気象情報を加工し利用者に提供するサービス。

より、子どもたちの理解を深めることができた。

また、自分のオリジナル健康予報をする場面では、子どもが電子黒板で操作する姿も見られた。個々の課題に応じて結果が出されることで、子どもたちの関心を高めることができた。



写真7・インターネットの資料を提示

6年 国語の授業より

授業者：岡田貴彦 教諭

6年生の授業は、平和についての自分の考えが、より相手に伝わるようにブラッシュアップすることをめざし、グループで見合い、話し合う学習が展開された。

発表は、3グループに分かれて行われた。電子黒板を使うことで、効率的に資料を提示することができていた(写真8)。資料を、実物投影機で取り込むことは2年生もしていたが、6年生では、プレゼンテーション用ソフトウェアで作成したスライドを使って説明する児童もあり、コンピュータ室での活動と教室での活動が繋がっていた。

自分の思いが伝わる発表になっていたかについては、「つたえ方の視点」にそって、伝える内容や資



写真8・電子黒板によるプレゼンテーション

料の効果、話し方などを評価し合っていた。そのため、自分の発表の課題について気付くことができた。

2 全体会の様子

(1)本日の授業から

全体会は2部構成で行われた。前半は、横浜市立高田小学校の佐藤幸江先生のコーディネートで、当日展開された授業について、参加者から感想や意見が出された。

① 2年 生活

- ・電子黒板で大きく映すことで、子どもたちの興味・関心が高まった。
- ・発表に、クイズ形式(アップ、ルーズ、一部を隠す)などの工夫を取り入れると、さらに、意欲的な活動になることが期待できる。
- ・子どもたちがICTを使う力をつけるためには、まず、教師が使ってみせるようにした。また、休み時間等に、子どもたちが自由に使えるように環境を整えた。

② 4年 算数

- ・図形に苦手意識を持っている児童が多い実態であったため、ICTを使ったことで、興味・関心の高まりが見られた。
- ・デジタル教材については、さまざまなものがあるので、試してみて、使いやすいものを選ぶようにした。
- ・発表については、結果を説明するより、実物投影機等を使って、ものさしやコンパスで操作している作業を見せながら説明した方が、分かりやすいこともある。

③ 5年 社会

- ・これまで、自分の思いを相手に分かってもらうための道具として、電子黒板の活用を図ってきた。本時は、子どもの発表はなかったが、学習テーマと、子どもたちの出会いを高めるための道具として、電子黒板を利用した。
- ・教材研究を行い、地域教材を活かす工夫はよいが、社会科の目標と関連づけることが重要である。

④ 6年 国語

- ・本時までの活動を通して、「伝え方」は身につけることができた。さらに、「伝えたいという思

- い」を持たせることと、その手立てに課題が残る。
- ・国語と社会科、総合的な学習の時間との発表の違いについて、ねらいをしっかりと持つことが必要である。
- ・ICTを使って、自分の姿を「見える化」して、課題を見つけることも効果的である。

(2)全体協議から

電子黒板が全学級に導入されている学校が対象の協議会であったので、「理解しやすくする」だけではなく、『表現力・思考力を育てる電子黒板（ICT）の活用』をテーマとして、協議を行った（写真9）。

日々の実践を通して、成果が上がっていることや課題となっていることなど、活発に話し合われた内容の一部を紹介する。

- ・子どもたちが、授業の中で電子黒板の機能を活用できるようにするために、図工での作品発表、朝のスピーチなど、意図的に触れさせる機会を増やしている。
- ・同じ時間に全員が電子黒板を使う場面と、日直のように順番に使う場面などを工夫し、日常化する工夫が必要である。
- ・電子黒板の導入2年目になり、子どもが転任してきた教師に使い方を教える場面も見られるようになった。継続することが大切である。
- ・教師が使う場面と、子どもが使う場面を分けている。算数では、導入とまとめは、教師が説明に使うことが多い。展開場面では、画面分割機能を使い、それぞれの考えを比較・検討する場面に利用することが多い。こうすることで、1時間の中で、知識・理解を身につける場面と、表現力や思考力を育てる場面を使い分けている。

- ・表現力や思考力を伸ばすためには、まず基礎的な内容をしっかりと身につけることが重要である。そのためは、何を大きく映すかとか、どこで見せるかなどの研究が必要となる。
- ・発表はできるが、話し合いを深めることが課題となっている。

3 今後の展開・展望・総括

今回、茅ヶ崎小学校で実施された授業においても、教師がICTを活用するだけでなく、子どもがICTを活用している場面が多く見られた。「まず教師が使ってみる」という段階から、子どもの情報活用能力の育成を図り、表現力・思考力を育てることをめざしたICTの活用へと、進んできていることがうかがえる。

電子黒板等は、さまざまな機能を持っており、大きな可能性を持っている（図）。しかし、協議会でも話し合われたように、ICTを使えさえすれば、子どもたちの力がつくというわけではない。今後は、教師が、子どもたちにどんな力をつけたいかをはっきりさせ、授業のどこで、どのICTを、どう使うかについて、授業デザインできる力が、ますます求められるようになると思う。

特に、電子黒板については、各校でさまざまな実践が行われ、その効果について検証されているところがある。ICT活用が全国に普及していくためには、うまくいかなかった事例も含めて、情報を共有することが重要である。今回の、茅ヶ崎小学校での公開研究会がそのきっかけとなり、今後さらに交流が深まることを期待している。



写真9・協議会の様子

図・ICTの可能性

